

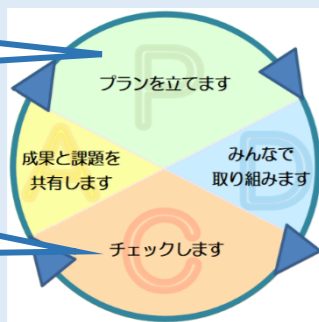
学校生活振り返り 学園・学校評価 アンケートで見えてきた三鷹中央学園

三鷹中央学園では、学園・学校での生活や教育活動への取組について、その達成度がどのくらいであるかを確かめるため、4年生以上の児童・生徒には「学校生活振り返りアンケート」、保護者には「学園・学校評価アンケート」を行っています。今年度も10月から11月に実施しました。今年度は初めて、学校で使用している学習用タブレット端末での回答をお願いし、四中生には新しい設問を加えてみました。昨年度までの文書によるアンケートより回収率は下がりましたが、ご回答くださった皆様に心より感謝申し上げます。今回のアンケート結果を受けて、1月のCS委員会で数項目について意見・感想等を話し合った内容を以下に掲載いたします。

[学校生活振り返りアンケート回収率 89% 学園・学校評価アンケート回収率 72%] (肯定的回答と否定的回答の境目に赤線を引いています)

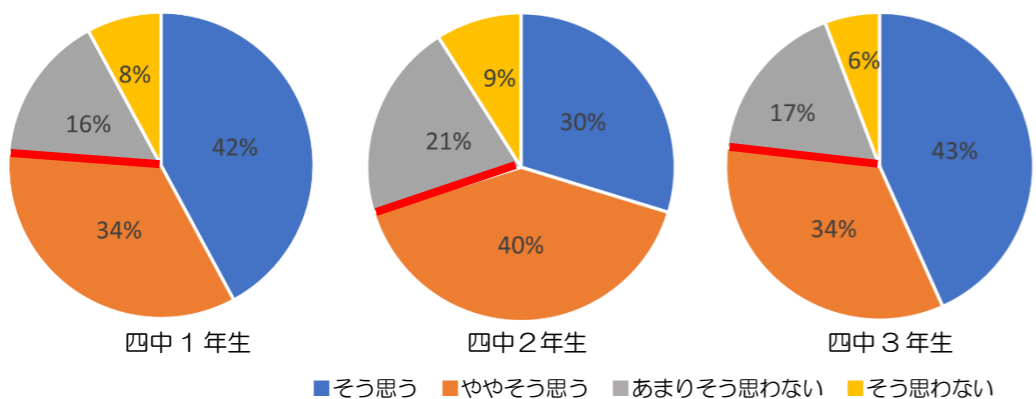
アンケートの結果は
よりよい学園・学校づくりに
反映されます

学園の目標をたてます
(プラン)



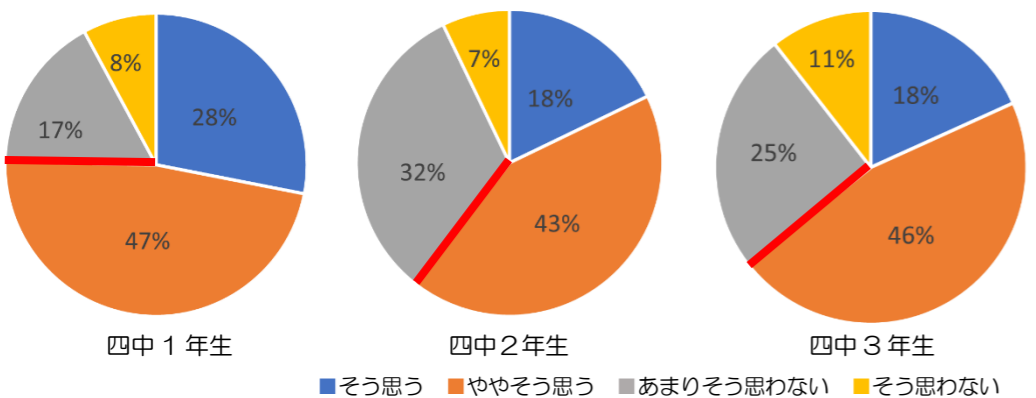
アンケートで確認します
(チェック)

<早寝・早起き・朝ごはん等、意識して健康や体づくりを気をつけている>



- 今回初めて取り入れた設問である。健康に対する意識はできていると思うが、「そう思わない」の回答は、どの言葉に対してなのか分析してみないとわからない。
- 否定的回答の生徒が20%~30%ほど。睡眠や朝食の大切さを学校として正しく伝えられるとよい。家庭での理解を深めていただけるよう取り組んでいきたい。
- 遅い時間のスマートフォンやゲーム機の利用も影響しているのかもしれない。
- 健康や体づくりについての学校からの発信を増やせるとよい。

<地域防災の担い手としての自覚がある>

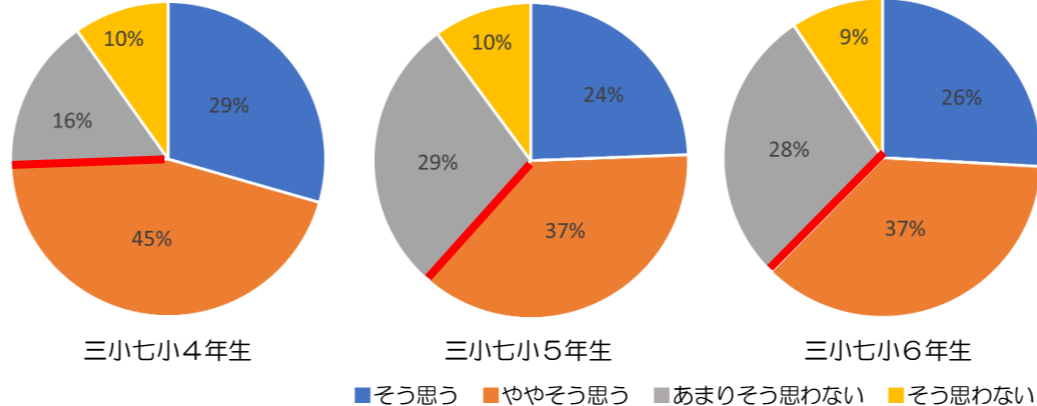


- 一年生は防災訓練に参加しているから、イメージも沸きやすく、肯定的回答が高いのだと思う。
- 三鷹中央学園の特色ある教育活動という意識をもって取り組むことが大切である。
- 「担い手」という言葉が難しかったかも。「手助けになれる」「防災活動の一員として」などの聞き方だと回答の数字も変わってくるかもしれない。
- 小中交流として中学生が小学生に教えるのもよい。



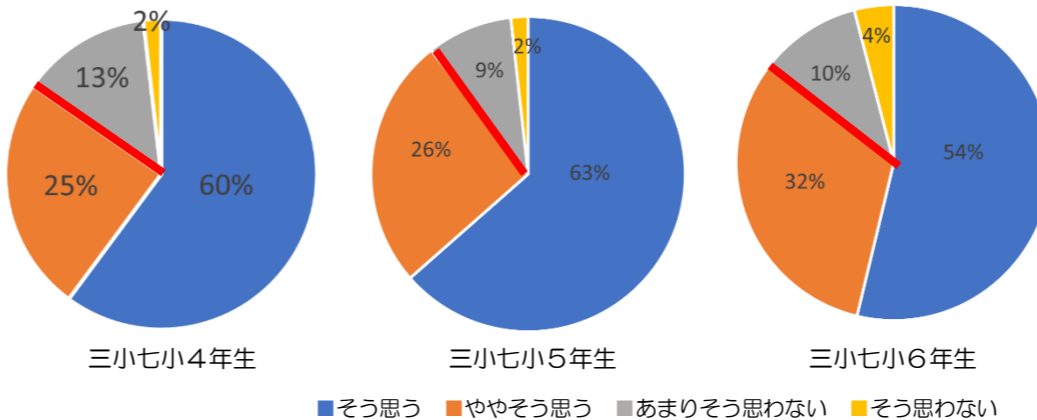
10月の三鷹市防災訓練に参加

<クラスの一員として自分はだれかの役に立っていると思う>



- 肯定的な回答が減っているのは、コロナ禍で行事が減り、個人の役割を發揮することができなかったからではないか。
- 今後の改善方法として、あいさつ運動のように「ホメホメ週間」を作り、お互いを褒め合うことで友だちのよいところ、また自分のよいところも気付けるのではないか。
- 受験という大きな課題を抱えていても、その学びの意義を考えさせて自己の有用感を育むことも大事ではないか。

<知りたいことがあるとき、図書館やタブレット端末を利用して調べている>



- 先生の学習用タブレット端末についての知識や力量によって、学校・学年・クラスでの活用に差が出ないようにしてほしい。
- 本の魅力を子どもたちには感じてほしいので、おすすめの本を情報共有できる仕組み(タブレットでも可)があるとよい。
- 夏休みの自由研究などで、学習用タブレット端末や本の情報を家庭にも示してほしい。親に対する発信もあればよい。
- 情報格差が出ないように、ある程度のレベルが保てるように指導していけるとよい。
- 授業や調べ学習で使えるアプリの情報を共有をしたらよいと思う。

保護者対象「学園・学校評価アンケート」

<地域・社会や自分の将来について考える授業が行われていること>

よくできている 23% 大体できている 62%
あまりできていない 14% できていない 1%

- コロナ禍で、校外活動や職場体験など、様々な職業の方の話を聞くなどの授業ができなかったのは残念であった。
- 学園では今年度から、「キャリアパスポート」に取り組んでいる。自分の将来について考えたことや行事ごとに振り返りをしたことを記入し、小学校から中学校まで積み重ねることができるようにしている。
- 学習用タブレット端末を活用して、事業者の体験談や地元の方に職業についてお話をきくなど、今までと違う形でキャリア教育を進めていけるとよい。
- SDGsの学習を通して、自分ができることは何かを考えさせるのも大事である。

<子どもたちがあいさつすること、毎日誰に対してもきちんとあいさつができている>

よくできている 26% 大体できている 57%
あまりできていない 15% できていない 2%

- 80%以上はできているとしているが、地域の方々の評価とギャップがあるようだ。
- 子どもは知らない人に声をかけられたら逃げるように言われているので、「誰に対しても」という設問が問題点なのでは?
- 普段から「ありがとう」「ごめんなさい」と声に出して言えることがいざという時に「助けて」と声をあげて身を守ることにつながると思う。大人にもそれは大切である。
- 交通安全運動期間中の旗振りの時に意識させるようにする。